

令和２年度 学校評価報告書

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A：そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A：十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標 (到達したい状況・状態)	評価基準		結果	校内 評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員 評価
総務部	広報活動の強化	ホームページのSSL化（セキュリティ強化）と１０年ぶりのリニューアルによりきめ細やかな情報発信を継続して行い、充実した広報活動を展開する。	教員(1)・保護者(22)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教員100% 保護者86%	A	●ホームページをリニューアルしたことにより、見やすくなりアクセス数が前年に比べ大幅に増加した。また、教職員による記事作成（HP更新）も増加した。 ●次年度の課題としては、部活動などの大会結果等の細かな発信が課題である。	●今年度以上に、各科・各分掌ごとに記事作成（HP更新）を行うとともに、記事の質にもこだわり、部活動単位での記事作成（HP更新）にも力を入れていきたい。	A
	PＴＡ活動の活性化	①PＴＡ総会やPＴＡ評議員会などを通じて保護者との意見交換をすすめ、教員と保護者の相互理解を深める。 ②PＴＡ会報の発行（４月下旬、７月下旬、２月下旬）、ホームページを頻繁に更新すること等により保護者への情報発信に努める。	教員(2)・保護者(27)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教員90% 保護者83%	B	●新型コロナの影響により、PTA評議員会・PTA総会・農業祭等が中止となり、学校と家庭との情報交換の場が確保されず、十分なPTA活動ができなかった。 ●HPや年３回のPTA会報（第３回は２月下旬発行）を通じて学校から家庭への情報発信だけになってしまった。 ●情報交換の場（家庭から学校へのご意見を聞く機会）をいかに確保するかが、次年度の課題である。	●次年度においても、年３回のPTA会報の発行と内容の充実に力を入れ、情報発信をしていきたい。また、８月には全国高等学校PTA連合大会が本県で開催される予定である。それに向けて、保護者の方と教職員がうまく連携でき、本校の教育活動の充実に繋がるように準備をしていきたい。	B
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をとおして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒(17)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	生徒92%	A	●遅刻に対する生徒の意識は高い。しかし、学年が上がると遅刻数が増加する傾向がある。	●生徒指導部、進路指導部、各科などとともに学校全体として遅刻しないよう呼びかけると同時に、遅刻の多い特定の生徒に対しては健康相談部の協力も得ながら学校への気持ちを高めさせる事が必要と思われる。	A
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や文章読解・作成能力検定、英語検定、農業技術検定の全生徒受験に加え、各科専門資格への挑戦をとおして生徒のキャリアアップに努める。	1、２年次は今年度取得した資格数が１つ以上の生徒の割合 ３年次は３年間で３つ以上の生徒の割合	A 90%以上	B 80%以上	1年:60.6 2年:87.3 3年:85.8 (2/1現在)	B	●全員受験のものや希望者受験のものなどがあるが、各教科・各学科において、組織的な指導が行われ、成果があった。	●直接的に指導する教科・各学科だけでなく、その他の教科も横断的に資格に関わることで、基礎学力の向上、資格取得への意識の高揚が図れると思われる。	B
生徒指導部	校外外で積極的な挨拶の実践	生徒会、風紀委員、教員と毎朝の挨拶運動を実施。全校集会、学年会などで呼びかける。	教員(3)・生徒(14)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教員74% 生徒95%	B	●挨拶に関しては、生徒会、風紀委員会を中心とした挨拶運動や各クラス・各部活動で継続的に指導していただいている。また、挨拶の大切さは進路学習等の様々な場面で繰り返し呼びかけている。 ●学校全体で粘り強く取り組むべき課題であると考えている。	●部活動顧問や進路指導部などと連携を取りながら継続的に指導をしていく。	A
	自転車の交通マナーの強化	全校集会、学年会、自転車小屋などでマナーや命を守ることの呼びかけ、学期に１回の街頭指導において連携しながら注意・指導をしていく。	教員(4)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教員72%	B	●昨年度（教員44.2%）に比べ改善傾向にあるように感じるが、まだ交通事故はなくなり、外部より苦情の電話等をいただいたりする（昨年度は４件、今年度は１件）。継続的に粘り強く交通マナーと命の大切さを指導していく必要がある。	●街頭指導、全校集会等の呼びかけなどの粘り強い指導を継続していく。	B
進路指導部	生徒の進路実現を達成するための体系的な指導体制の構築	面接指導・小論文指導（３年）、進路ガイダンス・進路希望調査・キャリア・パスポート（１・２年）を効果的に行う。	教員(5)・生徒(26)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教員92% 生徒89%	A	●進路関係行事の中止と延期が生じたが、必要な取り組みはできた。 ●３年生の就職選考開始時期の遅れの影響は大きかったと感じる。	●地域社会の変化に対応するべく情報収集に努め、最善の方策を講じたい。	A
	本校の特色を生かした進路決定	インターンシップ、プロジェクト発表、農場当番、意見発表、鑑定競技などの農業高校ならではの取り組みが、面接ノート（３年）、キャリア・パスポート（１・２年）に適切に記録されるよう促す。	保護者(11)・生徒(22)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	保護者95% 生徒89%	A	●本校の特色ある教育活動にも中止や延期があった。進路関係行事との関連についての検証を十分に行う必要がある。	●農業関連の行事の実施状況に留意し、進路関係の取り組みの微調整をしつつ、効果的な実施を図りたい。	A
健康相談部	保健関連行事の適切な運営	健康診断や健康教育、感染症予防の啓発、安全点検や環境整備作業など、生徒の健康管理並びに教育環境の維持に資する各種行事を適切に実施していく。	教員(6)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教員98%	A	●新型コロナウィルス感染症の影響で事業の延期や変更も多かったが、綿密な計画のもとコロナ対策を講じながら円滑な実施、運営ができた。過密な学校行事や学校医の都合に配慮しながら予定を組む事の困難さを感じている。	●学校医や関係機関・教員との調整を図りながら適切に実施していきたい。 ●昨年度の反省を基に、環境整備作業の充実の観点から用具の補充をしてきたが、今後も予算確保に理解を得ながら十分なものにしていきたい。	A
		新型コロナウィルス感染症についての注意喚起を促すと共に、校内において具体的な予防対策に取組めるよう支援とその環境整備に努める。	教員(7)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教員100%	A	●初めて行う対応策が多かったが、学校全体の協力のもと感染対策に万全を期す事が出来た。 ●感染が長期化した場合の慣れによる緩み、更なる感染拡大に対応した予算面での懸念がある。	●今後の感染状況や関係の予算措置等も見ながら、学校としてできる最大限の対応を行っていきたい。	A
	教育相談活動の充実	関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。	教員(8)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教員94%	A	●難しい事業も多く、問題の解決策に至らないケースもあったが、学年部、関係教員等の協力を得ながら、情報共有の機会を学校全体で月ごとに行うなど、情報共有と支援の充実に寄与することができた。	●各学年部からの詳細な情報をもとに、更に関係教員、スクールカウンセラー等との連絡を密にし、早期の対応に努める。	A
図書部	読書・学習・情報センターとしての機能の充実 (教育活動の展開に寄与)	①多様な資料の収集と提供を行う。 ②読書活動を推進する。 ③図書館や図書資料の利用を積極的に推進する。	一人平均７冊以上の読書量（貸出冊数） 年間の授業利用数120時間	A 90%以上	B 80%以上	一人平均6.3冊 授業利用数93時間	B	●一人平均の読書量は6.3冊(2月現在)と、目標を達成できそうだが、年間授業利用時数は93時間、目標に届かないと思われる。	●次年度はインターネットを活用した授業を図書館で行うことで、授業利用時数の増加に役立てたい。	B
	安らぎのある環境、知的好奇心を醸成する開かれた学びの場の提供	①利用しやすい環境を整備する。 ②教員や生徒のリクエストに迅速・丁寧に対応する。	教員(9)・生徒(43)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教員98% 生徒95%	A	●１学期に希望図書調査を行い、生徒からのリクエストによりきめ細かく対応できたと考える。	●館内の環境整備だけでなく、館外でも図書館のサービスが受けられるような仕組みを整備していきたい。	A
寮務部	意欲的な学習態度の育成	通常時60分、試験期間90分の学習時間の確保と、個に適した学習環境（食堂、舎室）を提供する。	教員(10)・保護者(26)・生徒(41)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教員93% 保護者69% 生徒93%	A	●通常時と試験期間のメリハリをつけることができた。	●次年度も継続していく。	A
	快適な寮生活を目指して、寮内の環境美化の推進	①週番業務により責任感を持った寮生活を送るよう指導する。 ②自治意識を持ち、互いに注意し合える雰囲気をつくる。	教員(11)・保護者(25)・生徒(42)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教員100% 保護者79% 生徒100%	A	●①については初めての取り組みであったが生徒はしっかりとこなした。 ●②については点呼時に寮長から寮生に話をする場面も見られた。	●次年度も継続していく。	A
農場部	研究活動の推進	①実験・実習を積極的に展開する。 ②生徒主体の探究的学習を推進する。	教員(12,13)・生徒(23,3)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 60%以上	教員98%,100% 生徒94%,87%	A	●各学科、令和4年度からの新カリキュラムや地域との協働事業を意識し、プロジェクト学習に取り組んだ。	●さらに、実験実習の充実を図っていく。	A
	専門科目関連への進路実現	①専門関連への就職指導をより充実させる。 ②自営学科（農林大学校等）への進学指導を強化する。	教員(14)・生徒(9)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 60%以上	教員95% 生徒76%	A	●農林高校の専門科目に期待し、将来は関連産業を希望する生徒も増えてきている。 ●各科の教員が生徒の進路の把握も必要である。	●進路を意識した専門科目指導を行っていく。	A

令和２年度 学校評価報告書

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A：そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A：十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標 (到達したい状況・状態)	評価基準		結果	校内 評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員 評価
植 物 科 学 科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(15,16)・保護者(9,10)・生徒(14,15) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 9 0 % 以上	B 8 0 % 以上	教員83%,89% 保護者90%,85% 生徒96%,96%	B	●生徒の満足度に比べ、保護者や教員の結果が低いのが気掛かりである。	●授業前後のあいさつ方法など、教員の意識を統一して指導することが必要と考える。	B
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業の充実を図る。 ②資格取得に向けての意識付け指導を行う。	教員(17,18)・保護者(2,31)・生徒(6,11) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 9 0 % 以上	B 8 0 % 以上	教員100%,93% 保護者93%,75% 生徒97%,71%	B	●プロジェクト学習など実習を伴う学習についての満足度は高い。 ●資格取得に対する意識が特に1年生で低いのが気掛かりである。	●2年時に専門的な資格取得が多くあり、意識は高まっているが、1年次から資格取得の重要性を認識させる指導をおこなう。	B
環 境 科 学 科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守を徹底させる。 ②気持ちの良いあいさつや言葉づかい、服装の指導を行う。	教員(19)・生徒(14,15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 6 0 % 以上	教員94% 生徒94%,90%	A	●基本的な生活態度は定着しているが、周囲への気配りや他人に対する思いやりを持った行動ができると良い。	●班活動の中で、自分の役割を果たしつつ、みんなで協力し合うような場面で、適切な指導ができるように心がける。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業を充実させる。 ②資格取得に向けての指導を強化する。	教員(20)・保護者(2)・生徒(6,11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 6 0 % 以上	教員100% 保護者89% 生徒95%,57%	A	●研究成果や資格取得という目標を達成するための生徒の意欲を高めることが必要。	●将来の職業や進路に対する意識を向上させる。 ●試験日程の変更にもともなう指導体制の再検討。	A
食 品 科 学 科	社会に通じる人間力の育成	①安心感と信頼感を持って授業を受けられる環境を構築する。 ②専門的技術の取得を目指す。	教員(21)・保護者(30)・生徒(10)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 6 0 % 以上	教員94% 保護者80% 生徒72%	A	●教員評価と生徒評価に差が生じているため、生徒の反応や声に耳を傾けていく。	●自分の成長を感じ、自主的に学習できる学習スタイルの構築を目指し、身に付けた力を表現できる場の創造と効果を検証していく。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	生徒の興味・関心が高まる授業・実習での指導方法の工夫を行い、生徒の学習意欲を喚起する。	教員(22)・生徒(25)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 6 0 % 以上	教員94% 生徒97%	A	●専門教科への満足度は高いので、今の現状を維持できるように努める。	●現状が維持できるように努めつつ、改善すべき点は改善する柔軟な発想を持って指導していく。	A
動 物 科 学 科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(23,24)・生徒(14,15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 7 0 % 以上	教員100%,100% 生徒96%,97%	A	●教員、生徒ともに良い結果であった。継続して取り組むとともに自己満足にならないよう取り組みたい。	●満足できる状態ではあるが、授業担当者による差が大きくなりやすいよう統一した見解で継続指導に当たる。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業を充実させる。 ②家庭学習を利用し、専門知識の定着を図る。	教員(25,26)・生徒(6,5)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 7 0 % 以上	教員94%,94% 生徒95%,96%	A	●生徒の取り組みは良好であった。レベルアップをはかりたい。 ●また教員においてもより家庭学習の質の向上を目標としたい。	●家庭学習の取り組みや実習時の取り組みが成績や資格取得など生徒に目に見える形で表れるよう工夫をしていき全体のレベルアップを図りたい。	A
一 年 部	目標に向けて行動を起こし（自らを育てる）、自己を表現できる生徒の育成	①クラス、授業、学年集会等で物事に見通しをもって取り組むことについての指導を行う。 ②マナトレを中心とした学習へ意欲的に取り組むように指導する。	教員(27,28)・保護者(13,14)・生徒(31,32)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 7 0 % 以上	教員96%,93% 保護者71%,89% 生徒87%,90%	A	●計画的に物事（時間、マナトレ、提出物）に取り組むかでは、生徒と保護者の評価に1 6 %の差があり、生徒自身の自覚より実情はまだ不足していると考えられる。家庭学習状況の10月調査では、平均5 4 分という結果であるが、調査時だけでなくいかに継続していくことができるかが今後の課題である。 ●周囲とコミュニケーションがとれるかについては、3 者とも高評価であった。継続して意識させていきたい。	●遅刻・提出物等の遅れなどについて、保護者との連携を一層密にとる。 ●資格取得の必要性を再認識させる。	A
	学ぶ意義を知り、地域へ視野を広げようと行動する探究心を持った生徒の育成	専門科目に意欲的に取り組むよう指導する。	教員(29,30)・保護者(15,16)・生徒(33,34)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 7 0 % 以上	教員95%,91% 保護者96%,91% 生徒97%,95%	A	●3者の評価は非常に高く、意欲的に専門科目や実習に取り組んでいるとらえることができる。・コロナ禍で企業視察等、学科により時期や場所の変更等があったが、どの科も実施することができた（今後実施予定の科も有）。	●コロナ禍に対応した実習や各種競技のあり方を検討する必要あり。	A
二 年 部	社会に通じるコミュニケーション力を持った生徒の育成	気持ちの良い挨拶をするよう指導する。	教員(31)・生徒(35)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 9 0 % 以上	B 7 0 % 以上	教員67% 生徒93%	B	●生徒のほとんどが「自分は挨拶ができている」と思っているが、教員は3分の1ができていないと思っている。「気持ちのよい挨拶」とは何かという定義づけに相違が見られる。	●「気持ちのよい挨拶」とは、「大きな声で、相手の目を見て、相手より先にする」ものだと年度当初に教える必要がある。	B
	自ら意欲的に学び、社会に貢献できる生徒の育成	資格試験等に意欲的に取り組むよう指導する。	保護者(17)・生徒(36)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 7 0 % 以上	保護者82% 生徒90%	A	●全員受験の検定はもちろん、他の検定にも希望して意欲的に受検している。	●同じ週に基礎力診断テストや各種検定が重なって、生徒が準備にしんどい思いをしている。 ●検定の年間予定表をとりまとめて計画的に実施する必要がある。	A
三 年 部	最高学年として他の模範となる生活態度を実戦し自己管理能力を身につけた生徒の育成	各クラスでの各授業、H R 活動や学年集会を通して指導していく。 様々な場面でふさわしい言葉遣いやあいさつができるように指導する。	教員(32,33)・保護者(18,19)・生徒(37,38)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 7 0 % 以上	教員100%,90% 保護者81%,92% 生徒94%,91%	A	●評価基準を大きく上回っており、概ね達成できたのではないかと考える。ただ、生徒と保護者の間で乖離がある項目もあり、生徒の自己評価がやや甘いのかとも感じた。 ●コロナ禍で、学年でのレクリエーションができなかったことは残念である。	●コロナ禍での学年行事（遠足を含む）の計画を慎重に進めていく必要がある。	A
	進路実現に向け、情報の収集や分析を主体的に行い、進路決定ができる生徒の育成	①週に1度学年会を実施し、生徒の情報交換を充実させる。 ②困り感を抱えている生徒の支援について、健康相談部か	教員(34,35)・保護者(20,21)・生徒(39,40)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 8 0 % 以上	B 7 0 % 以上	教員100%,94% 保護者88%,90% 生徒91%,91%	A	●進路指導部との連携が取れ、進路実現に向けての効果的な指導ができた。	●コロナ禍における県外就職・進学対応のマニュアルが必要となるのではないか。	A
	出雲農林高校満足度の向上	教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	保護者(34)・生徒(1)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 9 0 % 以上	B 8 0 % 以上	保護者92% 生徒90% (1年93%) (2年89%) (3年88%)	A	●昨年度は生徒全体の満足度が約9 2 %で特に3 年では9 6 %の生徒が満足している結果であったが今年度は、1 年が9 0 %を超えたものの2、3 年では9 0 %を切る結果となった。 ●その要因として、コロナ禍で2 年の県外実習が中止となり、また農業祭での模擬店中止など3 年の活躍の場が減ったことが原因と思われる。 ●また、充実した学校生活を送っていると答える生徒が大半を占める中、悩みを抱える生徒に寄り添える体制を一層強化していく必要がある。	●生徒の主体性・自主性を強化するために、生徒主体の会である「生徒会、農業クラブ、家庭クラブ」の充実を図り、生徒の意見を反映した魅力化に取り組んで行くと共に、一層地域連携を進め、魅力化の推進及び発信を行う。 ●一方で安心、安全に学校生活が送れるためにいじめやSNSなどの生徒間トラブルや、不登校傾向にならないようにするための対策や早期対応に一層強化していくと共に、個別面談等で、個々の抱える問題にいち早く気づき、寄り添う指導体制をより強化していく。	A